

建築の作者：建築をつくるのはどんな人か

内容主旨

建築の歴史については、現在の我が国では日本建築史、西洋建築史、近代建築史のほか、東洋建築史や都市史、保存などさまざまな分野に細分化されているが、このような枠組みを超えた共通のテーマは見つけれないだろうか。建築は絵画や彫刻とは異なり、最初から最後まですべての作業を一人で手がけることはできない。建築の設計を依頼する人、設計をする人、施工する人といったように、さまざまな人々が関わるのが建築の大きな特徴の一つである。さらに長い時代を経て親しまれてきた建築であれば、所有者のみならず、使用者や訪問者も少なからぬ役割を果たしたといえるだろう。

本シンポジウムでは、各分野の建築史家と実務に携わる建築家にご登壇いただき、建築家や建築士、大工や石工など、「建築の作者」について幅広く意見を交わしてみたい。

・主旨説明「建築家のルネサンス」

飛ヶ谷潤一郎（東北大学）

・「1669年6月のヴェルサイユ新城館コンペの様相と

指名された6名の「建築家」たち

中島智章（工学院大学）

・「日本近代における建築家と工匠」

永井康雄（山形大学）

・「ヴァイマル期ドイツにおける近代建築家たちの

住宅への取り組みとその使用者」

海老澤模奈人（東京工芸大学）

・「建築士の資格から見た建築家という職業」

速水清孝（日本大学）

・討論

・まとめ

氏家清一（氏家建築設計事務所）

日 時：2022年2月18日（金）15時～18時

場 所：Zoomによるオンライン（参加費無料）

参加をご希望の方は、2月17日までに下記のGoogleフォームからお申し込み下さい。後日、Zoomのアクセス先をメールでご連絡いたします。

申込先：<https://forms.gle/FEXH56rVASQ7X33u8>